

新潟県長岡地域振興局長賞

「税金のその先に」

新潟大学教育学部附属長岡中学校

三年 渡邊 博之

税と言われて、多くの中学生は一番初めに消費税を思い浮かべるのではないでしょうか。それは私たち中学生が唯一、自ら納めている税金だからだと思います。

しかし、私も含め、中高生の段階では税金がよくわからない、という人も多いのではないのでしょうか。私はこの「税についての作文」をきっかけに税金に興味を持つことができました。

先ほどもふれたとおり、中学生が納める税金はほとんど消費税しかありません。つまり、納めている税金が少ないのです。まあ、稼げるわけではないので当たり前と思うでしょう。しかし、それに対し、私たちに使われる税金はとも多いのです。

私は小学校のころからよく本を買う子供だったので、どうして学校で貰える本はお金がかからないのだろうと疑問に思ったことがあります。母に聞いても、「それは税金があるからだよ」と言われ、税金という漠然とした何かがあることを知っただけでした。その税金の大きさなど当時の私はこれっぽっちもわからなかったでしょう。

小学生には一年間に一人当たり約八十九万の税金が使われ

るそうです。中学以降は一人当たり百万を超えてきます。このように日本の整った教育制度には税金は大きくかかわっています。

医療に関しても私たちは恵まれているといえるでしょう。私たちが様々な病気にかかってしまったときの診断や薬などには税金が使用されています。

また、薬の研究などにも税金は使われます。開発にも配布にも私たちは税金に助けられています。

私も幼いころに自分の病気に数回の入退院を繰り返させられた時期がありました。たくさん酸素マスクや点滴を使ったにもかかわらず、しっかりとした治療を安心して受けることができたのは間違いなく税金の制度のおかげです。もし、税金がない代わりに、この制度もなかったら、私は生きていないかもしれません。そう考えると感謝しかなく、税金のありがたみを感じます。

今の私たちは税に深くかわることはできません。しかし、社会に出れば、所得税や法人税、固定資産税など多くの税金と関わります。だからこそ、そのときではなく、今、税金を学ぶ必要があると思います。

また、現在はより良い納税をしてもらおうと「ふるさと納税」というお礼の品が返ってくるような活動もあります。

様々なところで私たちは税金に支えられています。納税に対して正しい知識を知り、自分もうれしくなるような納税ができるようになるべきです。

そんな「税金のその先に」素晴らしい日本と思えるような明るい未来ができていくのだと思います。